

全国高等学校総合体育大会 (夏季大会)

競技施設・設備等基準

(第3刷)

(公財)全国高等学校体育連盟

令和4年3月

種目ごとの競技施設・設備等の基準

第1刷 平成28年5月送付（令和3年度より適用）

第2刷 令和3年3月送付

＜更新競技＞水泳・サッカー・ホッケー・アーチェリー

第3刷 令和4年3月送付（令和4年度より適用）

＜更新競技＞バレーボール・ウエイトリフティング

目 次	ページ
1 陸上競技	1
2 体操競技・新体操	2
3 水泳	4
4 バスケットボール	5
5 バレーボール	6
6 卓球	7
7 ソフトテニス	8
8 ハンドボール	9
9 サッカー	10
10 バドミントン	11
11 ソフトボール	12
12 相撲	13
13 柔道	14
14 ボート	15
15 剣道	16
16 レスリング	17
17 弓道	18
18 テニス	19
19 登山	20
20 自転車競技	21
21 ボクシング	22
22 ホッケー	23
23 ウエイトリフティング	24
24 ヨット	25
25 フェンシング	26
26 空手道	27
27 アーチェリー	28
28 なぎなた	29
29 カヌー	30
30 少林寺拳法	31

競技名	陸上競技		大会期間	5日間	番 号	1
-----	------	--	------	-----	-----	---

競技場の 基準	第1種公認陸上競技場	コート(面)数	摘要	○男女同時開催(男女別開催は考えにくい)
		1		

基 準 の 主 な 内 容				
1 規格等 ・一周400mトラック。8レーンまたは9レーン(レーン幅は、1m220または1m250) ・障害物競争設備は必要。 ・全天候舗装。インフィールドは、天然芝であることが望ましい。 2 必須要件 ・写真判定装置 ・照明設備 ・電光掲示板 3 空調設備 ・医療・救護施設については必須(プレハブでの対応でも可)。 ・本部室、特に大会運営に電子機器(コンピュータ)等を使用する部屋については、空調設備は必須と考えている。 ----- (配慮すべき事項)				

サブ会場・練習会場	会場付帯施設・設備等
○補助競技場1. 投擲練習場1(投擲用サークル・助走路は必須) ○できればメイン競技場に隣接していることが望ましく、徒歩での移動が可能な距離にあること。 ○宿泊施設の近隣に、ある程度の練習場所があることが望ましい。しかし、配宿場所とも関係することであり、必須の要件ではない。	○待機時間等のため、防暑用のテントが必要。(各県1張が望ましいが、無理な場合は複数県合同でもかまわない。) ○駐車スペース 選手・監督、役員等に加え、応援等の観客数も含め来場者の総数から類推すると2,000台以上の駐車場が必要と考えられるが、会場の立地条件により困難な場合は、他の輸送方法等により代替するなど、会場地の実情に応じて実行委員会との協議により調整する。 ○暑さ対策のために、ミストシャワーのような冷却機器が設置されているとありがたい。

○要望事項 ・補助競技場は400mトラックが理想(300mも可)。 ・選手の防暑対策、健康管理の観点から日陰が必要。日陰が確保できない場合はテントの設置を要望したい。 ・補助競技場の材質は主会場のものと同一の素材・規格であることが望ましい。(特に跳躍ピットについては強く要望したい。) ・駐車場の台数確保を要望するが、開催地の実情に応じ柔軟に対応する。
--

○開催地実行委員会との協議・調整事項

競技名	体操競技	大会期間	3日間	番 号	2-1
競技場の基準	○男子6種目と女子4種目を同時進行できる広さを有する体育館 ○男子6種目 ゆか あん馬 つり輪 跳馬 平行棒 鉄棒 ○女子4種目 跳馬 段違平行棒 平均台 ゆか	摘要	○男女同時開催		
基 準 の 主 な 内 容					
1 規格等 ・日本体操協会公式競技検定品(全国高体連体操専門部推薦品)とする。					
2 必須要件					
3 空調設備 ・選手の演技上の安全確保、怪我の未然防止のために必要。(夏季は、湿気・汗により、器具およびグリップが滑る恐れがあるため。) ・会場選定の段階から、既存の空調設備の有無について配慮されることが望ましい。仮設空調設備の設置は開催経費の増加に直結する。					
(配慮すべき事項)					
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等		
1 サブ会場は男女各1会場 ・サブ会場はメイン会場と同一規格の器具を設置する。			○ トイレ・更衣室		
2 サブ会場以外に練習会場を男女各1会場設置する。(※平成25年より実施) ・器具はメイン会場及びサブ会場と別規格の器具でも可とする。			○防暑、熱中症防止のための諸設備について配慮いただきたい。		
			○観客席については2,000席程度を確保いただきたい。		
○要望事項					
○開催地実行委員会との協議・調整事項					

競技名	新体操		大会期間	2日間	番 号	2-2
競技場の基準	○1面の広さ(14m×14m) ○天井高14m以上あること;手具を天井に投げる動作があるため) ○審判席からマットまでの距離が6メートル以上あること。	コート(面)数 2面 (男子1面、女子1面)	摘要	○男女同時開催		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 ・日本体操協会公式競技検定品(全国高体連体操専門部推薦品)とする。						
2 必須要件						
3 空調設備 ・選手の演技上の安全確保、怪我の未然防止のために必要。(夏季は、湿気・汗により、器具およびグリップが滑る恐れがあるため。) ・会場選定の段階から、既存の空調設備の有無について配慮されることが望ましい。仮設空調設備の設置は開催経費の増加に直結する。						
(配慮すべき事項)						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
1 サブ会場 男女各1会場 サブ会場は、メイン会場と同一規格の器具を設置する。			○ トイレ・更衣室			
2 練習会場はサブ会場以外に下記とする(※平成25年より実施) 器具はメイン会場及びサブ会場と別規格の器具でも可とする。 ・男子練習会場はサブ会場以外に1～2会場 (男子マットの数は2面必要) ・女子練習会場はサブ会場以外に2～4会場 (女子マットの数は4面必要) ・練習会場の天井高は8m以上			○防暑、熱中症防止のための諸設備について配慮いただきたい。 ○観客席については3,000席程度を確保していただきたい。			
○要望事項						
○開催地実行委員会との協議・調整事項						

競技名	水泳	大会期間	4日間	番 号	3
-----	----	------	-----	-----	---

競技場の基準	(公財)日本水泳連盟プール公認規則(2018)「公認プール施設要領」より、「国内一般プールAA」基準に対応していることが望ましい。	コート(面)数 競泳・飛込・水球各1面(プール)	摘要	○各競技男女同時開催(水球は男子のみ)
--------	---	---------------------------------	----	---------------------

基準の主な内容				
1 規格等「公認競泳プール」「公認飛込プール」「公認水球プール」 2 必須要件 ○競泳プール (1)長さ;タッチ板を両端壁に設置する。50. 02m (2)幅;20. 4m以上 (3)水深;1. 60m以上 (4)スタート台の高さ(水面からの高さ);0. 50m以上0. 75m以下 (5)レーンの数;8レーン以上 (6)レーンの幅;2. 5m(現状の必須要件として2. 5m×8レーン+0. 4m=20. 4m) (7)プール両端の余裕;0. 20m以上で休息だなの幅以上 (8)水温;25～28℃ 静水 ○飛込プール (1)競技用施設として1m、3m各2基の飛板及び1m、3m、5m、7. 5m、10m各1基の飛込台を設置する。 (2)競技用とは別に、飛板1m2基、飛込練習台1基以上を設置する。 (3)水温26℃以上、泡立て装置、温浴槽、照度は水面1mの高さにおいて600ルクス以上とする。 ○水球プール (1)競技エリア長辺33. 3m(ゴールライン間30. 0m)、短辺20. 0m、水深2. 00m以上。 (2)水温25℃以上27℃以下。 (3)フィールド内の照度は600ルクス以上とする。 3 空調設備 室内競技場の多くは空調設備が完備されており、選手・観客・競技会スタッフの体調面では問題なく運営されている。屋外の施設においては、休憩場所等の空調設備は体調管理に必要である。また、温度に影響を受けやすい精密機械(PC等)を扱う場所は空調設備が必要である。 (配慮すべき事項)○計時装置のリース及び専門オペレータについては、記録を争う競技なので正確性とスピード性が必要であるため、公式計時はSEIKO社のバックアップシステムを導入することとする。				

サブ会場・練習会場	会場付帯施設・設備等
○メインプールの同施設内もしくは同敷地内が望ましいが、近隣プール(学校プール等)で公認でなくても可とする。 ○競泳は大会前日から公式練習日を設ける。会場は準備のため開館し、プール本体は開放して練習に使用する。飛込・水球は大会2日前から公式練習日を設ける。 ○サブプールも同様であるが、近隣プールの場合、日数は削減できる。(1日前から最終日午前中まで) ○練習会場の要件は競泳用プールであり、安全のためレーンロープや5mフラッグが設置されていれば利用可能。(中学校以上のプールであれば水深は問題ない。十分な水深がないプールの場合、スタート練習を不可として使用する。)	○選手控場所が会場内に設置できなければ近隣の施設(体育館等)を利用する。選手の体調管理を考えると、空調設備は必要である。(近年控場所としてテントの設置はほとんど行われていない) ○観客席は、多くを一般客に開放し、会場の一部とオープンスペースを選手応援席としている。2,000席は確保したいがそれ以下でも運用次第で対応は可能である。 ○開始式は原則として競技会場で行う。競技会場で開催できない場合の理由として、プールサイドが狭く人の移動が困難であること。また、椅子等の搬出入により、式以降の競技会運営に影響が生ずることなどによる。 ○代替施設については、開始式の規模から考え小学校の体育館程度の面積があれば、開催可能である。

○要望事項

○開催地実行委員会との協議・調整事項: 高校生最高峰の競技会であることを考えると、運営面・施設面ともに(公財)日本水泳連盟競技規則の内容で運営してほしいと考えている。

競技名	バスケットボール		大会期間	6 日間	番 号	4
競技場の基準	(公財)日本バスケットボール協会競技規則 第2章第2条コート・第3条用具・器具および「第3条用具・器具」の詳細による	コート(面)数 12	摘要	男女同面数(6コート)がのぞましい。 ただし、同時(開催地含む)開催の場合、試合数により男女同コートにすることは可能である。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 別紙添付 ゴールについては、安全面を考慮し移動式でプレッシャーリリースリングを備えていることが望ましいが、特に女子競技の場合、1・2回戦はこの限りでなくてもよい。 2 必須要件 コートの床面は木材とする。 コート内に直接太陽光が差し込まないこと。バックボード後方や横方向などは外光が遮られるようにする。 3 空調設備 設置されていることが望ましい。競技会場選定の段階から、既存の空調設備の有無に配慮して調整いただきたい。仮設による空調設備の設置は開催経費の増加に直結する。 どうしても空調設備を設置できない場合は、控え室への設置や試合数を最小限度に抑えることなどについて、実行委員会と事前に協議する。 (配慮すべき事項) 複数コートを設置する会場では、コート間の距離は互いに2メートルずつ(4メートル)とする。 また、コート間に机・椅子などを設置する場合は、それぞれのコートから2メートル以上離れていることとする。 コートエンドについては、競技規則では障害物まで2メートルとなっているが、安全面を考慮して、十分な空間が保てることとする。						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
○サブ会場は、ウォーミングアップのスペースとして、身体を動かすことを目的とするので、広い空間があることが望ましいが、バスケットボール器具などは不要である。 ○練習会場は、試合会場以外で設置する。試合会場は事前の練習会場とはしない。練習会場は可能な限り試合コートと同様とする。			○男女別更衣室 ただし、会場がどちらか一方であれば、同一でも可とする。 ○審判控え室及び審判更衣室 ○いずれも、シャワー室が隣接することが望ましい。 ○救護室は空調設備のある部屋であることが望ましい。 ○役員・補助役員控え室 ○記録集計室 ○プレスルーム(記録室と同室も可) など ○観客席 メインコート5,000席(近年、決勝戦においては5,000人を超える観客数があり、正席がない場合でも、仮設席で対応することを要望したい。			
○要望事項						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 施設設備については、日本バスケットボール協会が定めるコート・用具・器具の規定を満たすことが望ましいが、その他付帯項目も含めて、開催地実行委員会と十分協議する。						

競技名	バレーボール		大会期間	4日間	番 号	5
競技場の基準	(公財)日本バレーボール協会が規定する競技場とする。	コート(面)数 男子6面 女子7面	摘要	○例年、男女別開催で行っている。開催地が違う場合(近年では平成23年秋田県、青森県での同時開催)は、同時に開催したこともある。 ○男女とも競技初日のグループ戦で7面のコートが必要となる。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 1面＝18m×9m 高さ7m以上 照度700ルクス以上 ※ フリーゾーン ＝ サイド3～5m エンド6.5m 2 必須要件 3 空調設備 既存の設備がある場合は、生徒の健康面を考え(1日に2試合実施)是非とも使用したい。既存の設備がない場合はその限りではない。 ----- (配慮すべき事項)						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
○例年、競技開始前日(午後に代表者会議、開会式)には14面のサブコート(練習コート)を準備しているが、使用するチームが減少していることもあり、今後は実行委員会と十分協議する。 ○競技開始第2日目の7会場14面、3日目の3会場6面は利用率が8割前後と高い。しかし、経費節減も勘案し、全体として削減の方針で実行委員会と十分協議する。			○来賓、総務、競技、審判、救護、競技補助役員、記録等の部屋が必要である。 ○観客席は、1,500席以上を希望する。このため、使用施設選定の段階から十分配慮して調整いただけるよう希望する。 ○ただし、仮設とした場合、経費が大きく増加することから実行委員会と十分協議する。			
○要望事項						
○開催地実行委員会との協議・調整事項						

競技名	卓球		大会期間	5日間	番 号	6
-----	----	--	------	-----	-----	---

競技場の基準	(1)観客席2,000席以上ある施設。 (2)複数(5～7)の会議室を保有する施設。 (3)冷房設備を保有する施設。	コート(面)数	摘要	1 男女同時開催とする。 2 男女同一会場とする。 ただし、施設の規格から、必要台数を設置できない場合は、2会場も可とする。 その場合には、極力隣接する施設が望ましい。 3 卓球台は28台以上が望ましい。
		28台以上		

基 準 の 主 な 内 容
1 規格等 (1)競技領域は、長さ14m、幅7m以上の長方形とする。ただし、この広さを確保できない場合には、長さ12m、幅6mも可とする。 (2)各列は、高さ75cmまたは50cmの均一な濃色の「フェンス」で囲むこと。 2 必須要件 (1)天井の高さは5m以上とする。 (2)照度は卓球台上(プレイングサーフェイス)の全面で1,000ルクス以上、競技領域のその他の部分における照度は500ルクス以上なければならない。 (3)照明源は床5m以上になければならない。 (4)上記には覆われていない窓からの日光は含まれない。 (5)床は、明るい色、または明るく反射したり、滑りやすいものであってはならない。 3 空調設備 (1)競技は日光や風を遮断した状態で真夏の室内で行われることから、空調設備は必須条件である。 (2)会場選定時から既存設備の有無に配慮しながら調整をお願いしたい。仮設の空調設備の場合は経費が大きく増加する。 (3)競技の特性上、空調による風が競技に影響を及ぼさないことが必要であり、冷気の吹き出し口について、配慮が必要になる。 (配慮すべき事項) 特記事項なし

サブ会場・練習会場	会場付帯施設・設備等
(1)卓球台55台以上とする。 (2)練習領域は6m×12mとするが、施設の規格からこの広さを確保できない場合は、安全面に十分配慮する必要がある。 (3)練習会場数は特に定めないが、可能な限り競技会場から近距離にある施設が望ましい。 (4)大会日程の消化に合わせて、遠距離に配置されている練習会場は閉鎖していくものとする。	(1)競技領域を囲むためのフェンス (2)卓球台に付随するネット、サポート(支柱) (3)カウンター(得点板) (4)審判台 (5)ストップウォッチ (6)イエローカード、レッドカード、ホワイトカード (7)タイムアウト表示器 (8)進行掲示板 (9)トランシーバー (10)競技別開始式は基本的に競技会場で実施しているが、大会運営の効率を考慮して、近隣の公共施設を借用して実施する場合もある。 (11)記録掲示板

○要望事項 特記事項なし

○開催地実行委員会との協議・調整事項 (1)開催経費の削減について、開催地実行委員会と連絡を密にし最大限努力する。 (2)個々の備品調達経費の削減については、開催地実行委員会と連絡を密にし最大限努力する。 (3)大会必要備品(看板等)については、持ち回りとして使用する。

競技名		ソフトテニス		大会期間	8日間	番 号	7
競技場の基準	(公財)日本ソフトテニス連盟「ソフトテニスハンドブック」による。 ・競技規則 ダブルスのマッチ 第2章ソフトテニスコート ・大会運営規則 第2章競技施設	コート(面)数	16面以上	摘要	○男女同時開催の場合: ・1会場32面また、2会場となる場合は1会場16面 ・大会期間は4日間＋予備日1日 ・人件費、運営経費の増大が懸念される ○2会場での開催の場合: ・合計20面以上でただし1会場は8面以上あること		
基 準 の 主 な 内 容							
1 規格等 ○1会場16面以上 ○コートサーフェイス;アウトドアではクレー、砂入り人工芝又は全天候型ケミカル等とし、インドアでは木板、砂入り人工芝、硬質ラバー、ケミカル等。 ○コート;縦23.77m、横10.97mの長方形。(詳細は「ソフトテニスハンドブック」参照のこと) ○コートライン;原則白色、幅5cm以上6cm以内、ただしベースラインは5cm以上10cm以内 ○アウトコート;コート間5m以上、ベースラインからフェンスまで8m以上、サイドラインからフェンスまで6m以上 ○ネットポスト;直径7.5cm以上15cm以内 両ネットポストの間隔はその外側において12.80m、高さ1.06m～1.07m ○審判台;座席の高さは1.50mを標準としポストから最も近い部分の水平距離で60cmのところに置く。							
2 必須要件 ○照明設置コートは8面程度必要(競技運営や試合の延長等の関係で、日没後まで試合が継続した場合のため)							
3 空調設備 屋外の競技であり、加えて夏季開催であるため、本部運営棟など大会運営施設の冷房設備は必須と考える。							
(配慮すべき事項) ○コートサーフェスについて、アウトドアでの競技であるため、「砂入り人工芝」が望ましい。 ○審判台について、小雨状態であるなら競技は続行されるため、審判員を雨で濡れないようにする屋根(着脱可能)があることが望ましい。							
サブ会場・練習会場				会場付帯施設・設備等			
○16面ないし20面以上、分散可。 試合直前の選手のためのウォーミングアップ会場があるとよい。				○健康管理の観点から防暑用の日陰の確保、確保できない場合は選手用テント(都道府県別)の設置を希望する。 条件によってはテントは2県に1張りで可能である。実行委員会と事前に協議する。 ○観客席2,000席程度は確保したいが会場の実情により柔軟に考えたい。 ○駐車場1,000台程度は確保したいが会場の実情により柔軟に考えたい。(分散しても問題ない) ○競技別開始式について 選手の体調管理、天候を考慮すると、屋内施設での実施が望ましい。			
○要望事項 ・近年の気象状況を勘案すると落雷に対する備え、対策は必須であり、事前に実行委員会と十分に協議・調整する。							
○開催地実行委員会との協議・調整事項 ・すべての項目について、別途実行委員会と協議・調整を図るものとする。実行委員会の意向を可能な限り尊重する。							

競技名	ハンドボール		大会期間	6 日間	番 号	8
競技場の基準	○規定のコートとする(室内 40m×20m 6コート; メインコート以外でやむを得なければ、38m×20mは許容する)。 ○コートサイド1m、ゴール後方2mは安全確保のために必要である。	コート(面)数 6	摘要	○男女別開催にすることは会場地への負担が大きい ため、同時開催が望ましい。これまでも男女間の バランスをとるために実行委員会が苦勞している。 ○コート数は合計6面は変わらない。3面×2会場の 規模が基本、開催地の状況で4面となったことも あるが分散しすぎだった。 ○2開催地になることに問題はないが、日程のズレ は賛成できない。会場が散らばることは状況によ りやむを得ないが、開催地の負担などを考慮す ると狭いエリアでの実施の方が運営面でメリッ トが大きいと考える。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 ○室内競技場 縦40m 横20m コートのラインは規則に合った規格であり、明確に示されてい ればよい。						
2 必須要件 ○室内40m×20m ○6コート ○安全確保のためコートの周囲に2m以上のスペースが確保できる(原則) ○デジタルの時計表示、退場表示 ○ベンチ数18 別にオフィシャル数6のスペースが必要						
3 空調設備 ○現在の気候、安全配慮、技術力のアップを考慮すると空調設備があることが望ましい。試合時間が暑さのために延長してしまう ことが多いので競技運営上も空調設備は必要である。ただし、開催地の事情も考慮し実行委員会と十分に協議する。 ○会場施設選定の段階から、既存の空調設備の有無にも配慮しながら調整いただければありがたい。仮設空調設備の設置には高 額の経費の積み上げを要する。						
(配慮すべき事項) ○会場の確保、日程及びスムーズな運営が確保できれば、さらに特段の配慮を要望することはない。						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
○従来は試合会場とは別に12会場ほどを準備いただいていた。今後は会場数縮小、さらに廃止を視野に検討している。会場地への負担軽減と考えている。(26総体神奈川では4会場に縮小、27総体大阪においても縮小する方向にお願いした。28総体山口においては練習会場を廃止する方向で実行委員会と協議している。)			○選手更衣室、休憩室(場所)は何らかの形で必要である。 ○会場に付帯する駐車場は大きくなくても可能である。大会役員のみで可能。近隣に応援車両用の駐車スペースがあることが望ましい。これは有料駐車場でも構わない。 ○開始式の会場は開催地の事情を尊重する形での実施している。選手全員の出席でなくとも会場地の実情に合わせた規模で実施できれば問題ない。			
○要望事項 ・安全かつ円滑な競技運営のためには、空調設備は大きな要素であるが実行委員会と事前の協議を十分に行いながら進めていく。。						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 開催地の意向を尊重しながら、十分な協議を進め、無理のない運営ができるようにしていく。						

競技名	サッカー		大会期間	6日間	番 号	9
-----	------	--	------	-----	-----	---

競技場の 基準	○規定のコート	コート(面)数	摘要	○休養日を挟んで、男女同時開催。 ○男女の使用会場は必ずしも完全に別である必要はない。男子を先に始め、日程が進行してから女子の試合を行い、決勝のみ同会場とすることも可である。
		男子8面 内ローンコート 4面以上 女子4面 内ローンコート 2面以上		

基 準 の 主 な 内 容	
1 規格等	1面＝105m×68m ゴールポストの形状は○でも□でもよい。
2 必須要件	ローンコートの場合、夏の場合、連日の使用で芝が傷むので、1日3試合を最大とする。
3 空調設備	
(配慮すべき事項)	

サブ会場・練習会場	会場付帯施設・設備等
○競技開始前日の練習会場；男子10面、女子4面 ○男子シード校の競技開始前日の練習会場；2面 ○休養日の練習会場；男子2面、女子1面 ○全て小・中学校のグラウンドで問題ない、ウォーミングアップ会場は試合コートの近くに確保したい。(スパイク不可でも問題ない)	○近年の気象状況を勘案し、雷雨発生時の避難場所(避難可能な建物が望ましい)の確保は必須である。 ○駐車場については、必ずしも会場近くである必要はないが、確保していただきたい。 ○トイレ、水道等給水場所の確保は必須である。 ○選手の更衣・荷物置きのための更衣室またはテントを確保していただきたい。(女子の更衣テントには囲いのあるものが必須である。) ○運営本部と応援席が混在せず、明確に分けることが出来るような配置または区分が必要である。 ○種目別開始式は炎天下にグラウンドではなく、空調設備がある体育館やホールのような公共施設等でチーム紹介、歓迎の挨拶、選手宣誓などを行う形式で実施しており、できればこれを踏襲したい。

○要望事項

○開催地実行委員会との協議・調整事項

競技名	バドミントン		大会期間	5日間	番 号	10
競技場の基準	(公財)日本バドミントン協会規定のコート	コート(面)数 36面	摘要	○男女同時開催とする。 ○開催市町村が複数の場合、男女各18面。 ※開始式・表彰・閉会式は男女同一会場とする。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 ○ 1面の大きさ 13.4m×6.1m ○ ネットの高さ 1.550m(中央 1.524m)						
2 必須要件 ○天井の高さ;12m以上 ○外光遮断 照度1,200ルクス 隣接するコートとの間隔;2m以上 ○本部施設とコーチングシート・ベンチとの間にスペースが取れること。 ○競技規則に定めるとおり主審台・得点板が確保できること。(ここまでが必須条件)						
3 空調設備 ○ 近年の気象条件、採光遮断・窓閉鎖等の競技特性等の要件から空調は必須である。 ○ 会場施設選定の段階から既存の空調設備の有無について配慮しつつ検討いただきたい。仮設空調の設置については大幅な経費の積み上げが必要となる。						
(配慮すべき事項) ○ 照度は800ルクス以上でも可能である。 ○天井の高さは10m以上でも可能である。 ○ コートの間隔に問題がある場合は、コートマットで対応することになる。						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
○25面、男女2チームに1コートの割り振りをしている。 ○最終日必要なしは可能である。			○観客席は3,000名以上が望ましいが会場地の実情に則して実行委員会と協議する。 ○駐車場は500台程度の確保を要望するが、会場地の実情に則して実行委員会と協議する。 ○開始式の実施施設の選定等については開催地実行委員会に一任している。			
○要望事項 近年の気象環境の状況ならびに競技特性等から、冷房設備が会場に標準装備であることを強く要望したい。 競技力向上の観点や高校生の目標とする大会としてのインターハイの位置付けを考えると、日数や競技形式ならびに個人戦についても現状を削減することはきわめて困難で状況にある。						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 実行委員会の意向を最大限に尊重して、事前の協議を十分に行い上記要件の充足を目指していく。						

競技名	ソフトボール		大会期間	4日間	番 号	11
競技場の基準	日本ソフトボール協会、オフィシャルルール2-1項、競技場の諸条件を満たしたものの。	コート(面)数 男子 4面 女子 5面	摘要	○男女同時開催は期間的には半分の日程になるが、練習会場を含む会場施設の確保に倍以上の経費が生じ、経費削減にはならないと考える。 ○分散会場については、日程上2会場までであれば実施可能である。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 ・競技場は平坦で、障害物のない地域であり、その上方空間を含む。 ・フェア地域は、両ファウルラインと、本塁から、男子:68.58m以上、女子:60.96m以上の半径の円弧に含まれる地域である。 ・ファウル地域は両ファウルラインの外側、および本塁とバックネットおよび内野フェンスまでの地域で、7~9mをとる。						
2 必須要件 ・球場の広さ ・球場内と球場外を分けるフェンスおよびネットの設置 ・ベンチの仕切りおよびテント ・各球場バックネット裏本部(審判員、記録員、放送等) ・各球場スコアボード、BSOカウンター、バックスクリーンの設置 ・各チーム応援スペースの確保 ・上記とは別に雨天対応のためにナイター設備を有した球場を最低1面確保する。また、全体の記録を集約し、速報等の作成を行うための記録本部及びけがや熱中症等に迅速に対応するため医師を常駐させた医務室の設置が必須である。						
3 空調設備 上記にあげた記録本部はコンピュータやファクシミリなどの通信機器を多く設置するため、空調設備が必要である。また、医務室も機能上に必要であると思われる。						
(配慮すべき事項) ・時期的に高温な状態が予想されるためそれぞれの施設(バックネット裏本部、応援スペース、次試合選手控えスペース)等にはテントの設置が望ましい。 ・外野のフェンスについては、フェンス外に次チームの選手や応援団が入らなければネットの代用でもかまわない。						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
○競技場周辺には例年、子供や高齢者等の応援が多く、バッティング等の練習は危険であるため、本会場に近接した練習会場が必要である。 ○練習会場はキャッチボール、守備練習、打撃練習が可能な広さが必要である。(小、中学校のグラウンドほど) ○フェンス、ネット等の仕切りは必要ない。			・大会本部、記録本部、医務室 ・会場に近接した大型バスの駐車スペースを確保してほしい。 ○開会式会場 ・1500席程度のスタンドもしくは観覧スペースを有することが望ましい。 ・最低大型バス48台の駐車スペースが必要になる。			
○要望事項 ・暑い時期に行われるため、選手はもとより、会場に来られた多くの方に対する熱中症等の予防策をきめ細かく行って欲しい。						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 ・仮設スタンド等委託に関することについては、別途実行委員会と協議、調整によるが、実行委員会の意向を尊重します。						

競技名	相撲		大会期間	3日間	番 号	12
-----	----	--	------	-----	-----	----

競技場の基準	全国高体連相撲専門部土俵規定に準ずる	コート(面)数	摘要	○男子競技のみ実施
		1		

基 準 の 主 な 内 容	
1 規格等	盛土俵＝一辺600cm以上727cm以下の正方形 直径455cmの円の外側に小俵(24個)を設置
2 必須要件	
3 空調設備	屋内の場合は冷房設備が必要である。
(配慮すべき事項)	

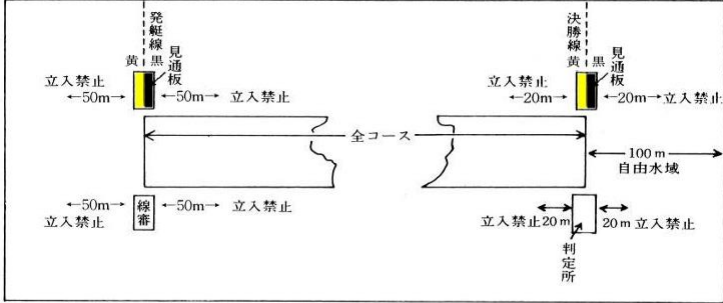
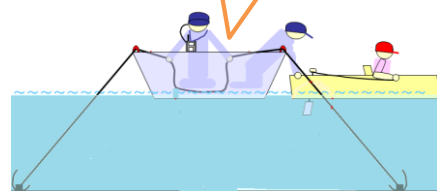
サブ会場・練習会場	会場付帯施設・設備等
練習土俵(試合会場に隣接 5面)土俵＝高さ10cm 直径＝455cm 雨天時を考慮して屋根必要	吊り天井については略式でよい 選手控室は必要である

○要望事項

○開催地実行委員会との協議・調整事項 抽選会場は、外部者を入れないため閉鎖できる場所が望ましい。

競技名	柔道	大会期間	5日間	番 号	13
競技場の基準	1 IJF(国際柔道連盟)の基準に合致すること。 2 全日本柔道連盟の基準に合致すること。	コート(面)数 4会場	摘要	○開催地によって、宿舎が確保できない府県があるため、男女別日程で開催している。 (中日1日は男女同時、午前・午後)	
基 準 の 主 な 内 容					
1 規格等					
2 必須要件 ○ひな壇 会場全体を見渡すことが可能であり、競技役員が全体の進行状況を把握できることにより円滑・適切な競技運営のために必須であるとの考えから、設置については是非お願いしたい。					
3 空調設備 選手・監督、役員等の健康・安全上の配慮及び熱中症対策等の観点から冷房は必須である。 仮設空調設備は高額な経費を要することから、会場選定の段階から既存の空調設備の有無について配慮いただきたい。					
(配慮すべき事項)					
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等		
○練習会場 4面を2カ所の設置を希望する。			○観客席 2,000席以上の確保が望ましい。		
○計量会場 大会会場に近接する形での設置を希望する。			○放送設備 アップ会場については、場内放送が視聴できることが望ましい。		
○要望事項 ・諸会議の会場(監督会議など)については大会会場に近接することが望ましい。					
○開催地実行委員会との協議・調整事項 問題が生じた場合は、開催地実行委員会と協議し解決していく。開催地実行委員会の意向を尊重する。					

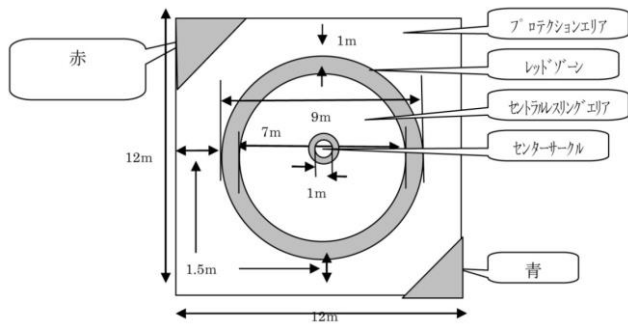
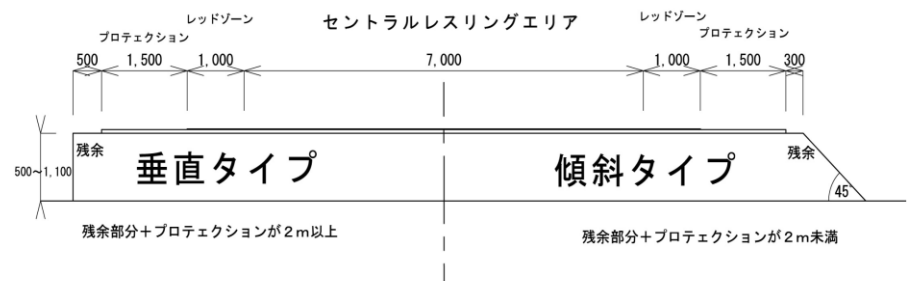
競技名	ボート		大会期間	4日間	番 号	14
競技場の基準	公益社団法人 日本ボート協会「コース規格規定」による。	コート(面)数 1会場 6レーン (5レーンでも可)	摘要	○男女同時開催		

基 準 の 主 な 内 容	
1 規格等 ・1レーン=1000m × 12.5m~15m ※スタート位置まで50m、ゴールから100mの自由水域が必要。  コース規  ステッキボート ※練習水域が2レーン、回漕レーン2レーン程度必要。 ・各ブイ間は12.5~25.0mが必要。また、距離発艇線から250m毎に色の異なるブイ(赤)を設置。陸上または水上に250m毎に距離表示を設ける 2 必須条件 ・上記規格が必須条件 3 空調設備 ・計時施設(コンピューター等機械のある施設)、救護施設には必ず必要である。 (配慮すべき事項) ・安全対策として、水上の安全を確保するためのモーターボート(審判艇3~4、救助艇4~5、作業艇3~4)が必要	

サブ会場・練習会場	会場付帯施設・設備等
・上記、規格にもあるとおりレース用のレーンの他に練習水域が必要。最低でも上り用と下り用レーンの2レーン必要。	・スタート地点…発艇台、線審台(見通板固定)、ステッキボート(艇を押さえておくボート) ・中間地点…判定席(階段状で水面から1.5~2m程度) ・ゴール地点…判定席(階段状で水面から1.5~2m程度)、写真判定装置 ・オール置き場(兼荷物置き場) ・選手用テント(直射日光・雨対策) ・駐車場(オール等を運んでくる車) ・競漕委員会室、審判長室、放送室(全体が見える場所に設置が望ましい)

○要望事項 ・屋外スポーツであるため、熱中症防止対策及び突然の雷雨(特に雷)対策が必要となる。 ・詳細については開催地実行委員会と別途協議する。
○開催地実行委員会との協議・調整事項 ・配艇で使用する競技艇については、別途実行委員会と協議・調整による。

競技名	剣道		大会期間	4日間	番 号	15
競技場の基準	全日本剣道連盟で規定している施設に関する事項は特段ない、通常の体育館あるいは武道館であれば問題ない。 (例年多数の応援者があり、観覧席が設置されていることが必要である)	コート(面)数 4面が必要 1面(11M×11M)	摘要	○男女同時開催 ○大会期間は4日間 ○1会場とする ○2会場で分離開催することは大会運営上できない。球技専門部のように男女別の専門部ではないので男女種別に分離しても役員、審判員、監督、選手が対応できない。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 ○4面必要で1面の規格が11m×11m、隣接する試合場とは約2m前後空ける。 ○過去の大会の開催地実行委員会では、小田原アリーナ、ビッグホールなど、約80m×40mほどの大体育館施設を会場として選定してきている。 2 必須要件 ○床は素足のため木材であること、コンクリートは不可である。 ○試合場に計時・記録役員席、掲示用ボードと審判主任席、審判員控え席を設置する。 ○大会運営のため、正面席をひな壇で設置して大会役員席、審判員席とする。全ての役員、審判員が全体の進行を確認できるように配慮しているため。 3 空調設備 ○選手が道具を着装して競技するため、選手自身の体温や館内温度の上昇を配慮して冷房空調は必須である。 ○選手や観覧者の熱中症防止対策として必要である。 (配慮すべき事項) ○大会規模は高校生男女の団体戦と個人戦を開会式を含めて4日間で実施する。 ○大会会場が1会場で男女団体戦・男女個人戦の全種目が行われる。そのため、選手・監督、役員はじめ多くの観客・応援の人が集まるので空調設備は必須である。剣道は競技特性上、道具を着装して競技するため、選手の体調管理や安全面、熱中症対策からも欠かせない必須である。 ・ひな壇については以前から指摘されているが、試合の進行管理、審判員の適切な試合運営を役員で確認して管理するために必要である。高校総体だけでなく特に全国規模やブロック規模の剣道大会では小学生大会から大人の大会まですべてひな壇を設置してその運営や進行管理を行っている。 ・選手の在籍する学校関係者が多数観戦するようになり、特設席を含む観覧席の確保が必要である。						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
○競技出場前におこなう練習(稽古)のため、サブ会場は必要である。 ○大会の本会場で練習することは競技進行中は不可能である。 ○種別ごとに競技プログラムを組んでいるので、競技がない時間帯や日に練習する場所が必要である。開催地実行委員会に依頼して高校、中学校、小学校の体育館を主に確保していただき使用している。			○観覧席 2,000席程度あることが望ましい。 ○駐車場 ・可能な限り駐車スペースの確保を希望する。 ・大型バスやワゴン車で来場する学校が多く、団体出場校は男女合わせて96校となるので駐車スペースの確保が必要となる。 ○競技別開会式 大会会長挨拶、審判長からの競技上の注意は大会運営上、必須である。競技会場と同一会場で行える。			
○要望事項 空調施設、ひな壇、特設観覧席は現在の大会運営上欠くことのできない内容であり強く要望します。						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 開催地が選定する競技会場により左右される要素が大きい。特に観覧席数や練習会場、空調設備、宿舍等については開催地実行委員会とは協議・調整による。開催地実行委員会の意向を尊重します。						

競技名	レスリング	大会期間	4日間	番 号	16
競技場の基準	(公財)日本レスリング協会公認レスリングマットとする。 ※世界レスリング連盟(UWW)公認は同時に日本レスリング協会公認とみなされる。	コート(面)数 4面	摘要	男子競技は、学校対抗戦(FS)2日間・個人対抗戦(FS)2日間で実施される。女子公開競技は平成25年度より実施され、平成31年度から正式競技として行われる予定。競技施設増設なしに女子競技実施は十分に可能である。	
基準の主な内容					
1 規格等	UWW認定の競技用マットは、9m直径の円形マットで1.5m幅の同じ「厚さ」の補助部分を有するものとし、ウォームアップ場及びトレーニング場は競技場と同質のマットでUWW公認のマットでなければならない。				
2 必須要件	9m直径の円形の内側1m幅の「レッドゾーン(赤色)」を置かなければならない。全部位をレスリングエリアと呼ぶ。マットの各部位の名称は次のとおりである。				
 センターサークル(Central Circle)はマット中央部をさす(直径1m)。マット内部の赤色で囲まれた内側はレスリングエリアである(直径7m)。赤色部分(レッドゾーン)の幅は1mである。プロテクションエリア(Protection Area)は1.5mの幅が必要である。「プラットホーム」上にマットを設営し、プロテクションエリアを含むマットの残余部分(プラットホーム)が2m未満の場合、プラットホームの立ち上り斜面を45度の傾斜パネルで覆う。この残余部分の色はマットの色と同色であってはならない。マットに隣接する木質部分のフローアは、柔らかい材質のカバーで完全に覆わなければならない。マットは、汚染防止のため各セッション前に清掃および消毒しなければならない。表面が滑らかで、ざらつきのない均一マット(キャンバス含む)が使用される場合も、同じ衛生上の処置を適用する。マットの中央に、幅10 cmのラインで内径1mの円を描かなければならない。上記のラインすべて赤色でなければならない。マットの対角線上にある両コーナーは、赤、青に色分けしなければならない。競技会を円滑に運営するためにマット周辺には、適切な広さの、フローア残余部分を有しなければならない。					
					
3 空調設備	選手等の健康面・熱中症予防として設置は必須である。 大会運営上、学校対抗戦計量→学校対抗戦→個人対抗戦計量→個人対抗戦と2回の計量を実施する。体重調整をしながらの競技が継続する事に配慮する必要がある。				
(配慮すべき事項)	○プラットホームの高さは、審判団の判定に重要な意味をもつ為にジャッジ・チェアマンの視線と審判団の机の高さにおいて整合するように設置する。 ○空調温度設定を体育館内温度計測によって決定するように特例的配慮を望む。外気温計測で空調温度設定をすることが体育館規定であると競技者の熱戦で館内が蒸し風呂状態での忍従を強いることがあり不合理である。実態に即した温度設定を願いたい。				
サブ会場・練習会場			会場付常設施設・設備等		
練習会場: 同じ会場内にマット2面程度設置 宿舍が広範囲になる場合には、別会場の設置も考慮していただきたい。 ※学校対抗戦計量と個人対抗戦計量の両日は、体重調整に励む選手が多く練習マットを使用することが考えられる。体重計を練習マットサイドに設置することと試合進行が練習会場まで伝わるような放送設備があることが望ましい。			各都道府県毎の選手控え室(コーナー) 空調を施した控え室があれば理想的である。体育館規模が小さい場合、観覧席で待機できない選手の休憩コーナーがあれば、体重調整後の選手の休息場所として利用できる。これは会場の雰囲気を良好にさせる意味でも望ましい。 ※会場の至る所で減量でぐったりした姿を晒す選手に苦しい思いをさせないことにもつながる。		
○要望事項	公開競技(平成25年度～平成27年度実施済)として実施された女子競技は、平成27年11月に正式競技として採用されることが承認された。地元への開催競技種目依頼の事務作業の関係上、正式競技実施は平成31年度からとなる。規模の変更が必要ない事を考慮して頂き、地元の理解を得ることで平成29年度より前倒しで実施される事を要望する。				
○開催地実行委員会との協議・調整事項					
その他の事柄については、別途実行委員会と協議・調整による。					

競技名	弓道		大会期間	4日間	番 号	17
競技場の基準	射場: 26m × 10m 矢道 26m × 28m 安土 26m × 5m 的間隔が1.8m以上 照度 750ルクス以上	コート(面)数 1会場 12人立以上	摘要	同一会場による男女同時開催で実施		
基準の主な内容 1 規格等 ○的前審判席・看的所・報道席の安全な設置を考慮した場合、35m以上×45m以上の床面積が必要である ○的鉛直面照度は、750～1000ルクスが必要である(JIS照度基準による) 2 必須要件 ○直射日光が選手に当たらないように考慮すること 3 空調設備 ○アリーナ開催においては空調設備が必須となる。 仮設空調設備の設置は高額な経費を要するため、会場選定の段階から既存空調設備の有無について考慮いただきたい。 (配慮すべき事項) ○競技に影響が出ないよう会場レイアウトに配慮する						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
練習会場 ○原則60的（1時間以内の範囲で準備いただきたい、既存の弓道場でも可） ○大会会場内に巻き藁練習場を設置すること			観客席 ○500席以上(安全確保のため安土側上部は使用せず、3方向のみの使用とする)。 選手控室 ○1000人収容可能な控室を用意できることが望ましい。 ○観客席が1000席以上であれば選手控室の一部として使用することも可能である。 役員席についてはインターネットの接続環境があることが望ましい。 その他 ○報道スペースの確保をする。			
○要望事項						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 その他、詳細事項等については別途、実行委員会間で協議・調整を行う。						

競技名	テニス		大会期間	7日間	番 号	18
競技場の基準	日本テニス協会『規定のコート』	コート(面)数 24面以上	摘要	○テニスは男女同時期・同一会場開催が望ましい。 ○1会場の必要面数は24面以上。2会場の場合の必要面数は各会場ごとに16面確保できることが望ましい。 ○2会場開催は、これまでも何度か実施してきたが、会場間の移動に課題があった。1会場開催が望ましいが、開催地の事情により2会場となっても意向を尊重して対応していく。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 ①コート規格【1面23.77m(縦)×10.97(横)、コートとコートの間隔5m以上、後方のフェンスまで8m以上、】 ②照明設備設置コートを8面以上確保したい。(毎年、照明使用時間帯まで試合が行われている。荒天時の順延を避けるためにも必要である。) 2 必須要件 ①試合時にコート上で必要不可欠な物【ネット・シングルスポール・審判台・ベンチ・スコアボード・コートブラシ・コート間にボール止めネット】 ②コートの周囲に確保が必要な物【審判・補助役員の席(折りたたみ椅子)、降雨・熱暑対策のため選手・監督用の待機所(テント)は2県に1張りが望ましい、報道機関の作業場所(テント1張り分)、大会本部の作業場所(テント2張り分)、審判・補助員の待機所(テント10張り分、観客用休憩所(テント10張り分)、医務室】 3 空調設備 大会本部、大会関係者・補助役員(生徒審判)の待機所、医務室等には熱中症予防等の観点から空調設備が必要。 (配慮すべき事項) ①試合会場に安全に観覧できるスペースがあることが望ましい。 ②駐車場(選手監督用)と(観客用)のスペースがあることが望ましい。 ③荒天時の順延を避けるため室内コートがあることが望ましい。						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
①練習場 最低限の要件として、試合会場と同様のサーフェス(コート面)であること。 大会3日前からは試合会場での各県練習割り当てが望ましい、それ以外に練習コート専用として24面程度確保できることが望ましい。			①選手・監督待機用テント 1県に1張りが望ましいが、2県に1張でも可能である。 ②駐車場 選手監督用(団体戦時約102校分)と観客用(約800台)のスペースが必要である。 ③種目別開始式 実施する場合、約1000人程度収容可能な会場が必要になる。試合会場から近距離であることが望ましい。			
○要望事項 ①テニス競技は教育活動の一環として生徒審判(補助役員)を全試合採用しているため、生徒審判の人数確保・旅費等の経費については開催地実行委員会に配慮をお願いしたい。 ②開催地役員(開催地高体連テニス部役員)が不足する場合は、開催地のテニス協会等に役員を依頼する場合がある。						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 ①経緯削減を念頭に置いたとき、開催地実行委員会と協議する事項として、大会会場とする施設の選定が第一であり、既存施設の利用の可否についての検討・調整が第一になる。(既存施設で観覧席・照明設備・室内コート・トイレの数・駐車場などの有無) ②コート面数(24面以上)が非常に多いので、開催地実行委員会より2会場使用の意向を示された場合は意向に最大限に尊重する。						

競技名	登 山		大会期間	4日間	番 号	19
-----	-----	--	------	-----	-----	----

競技場の基準	・登山コースについては全国高等学校登山大会コース規定による。 ・幕営地は3泊(1～3カ所)分。	コート(面)数	摘要	○男女同時開催 団体男子(A隊)・団体女子(B隊) ○2会場地以上にまたがる場合でも、合計で3コース。 ○開催県の事情であれば、2会場地以上になってもかまわない。
		3コース。		

基 準 の 主 な 内 容	
1 規格等 ○幕営地は1隊あたり5m×5mのグリッドを50カ所、適当な通路を要する。1カ所で男女両隊を収容する場合は、倍の地積を要する。	
2 必須要件 ○開会式に接着して諸審査を行うため、開会式場もしくは近隣に所要の施設が必要(学校なども使用可能)。 ○幕営地には給排水設備(1隊あたり概ね16口)が必要。 ○幕営地トイレ(既設、仮設を問わず)は1隊あたり概ね20穴以上必要。	
3 空調設備 ○天気図審査会場を防音のため締め切る場合には、冷房設備の設置が必要となる。	
(配慮すべき事項) ○開・閉会式は800人以上が収容可能な施設が望ましい。 ○開・閉会式会場は同一でも別でもかまわない。固定椅子の会館でも、体育館に仮設でもかまわない。 ○現地実施本部は安全管理上の観点から、大会山域との無線通信が良好で、24時間体制の開設が必要となる。	

サブ会場・練習会場	会場付帯施設・設備等
不要	○荒天時避難場所として、体育館等の施設。1パーティーあたり10から20㎡。男女別が望ましい。 ○荒天時、調理可能な場所。屋外テント、ピロティ、その他室内であっても火器使用が可能な場所を事前に検討する。1パーティーあたり10㎡程度、全パーティー同時に出来るスペースがなければ交代での使用も可とする。 ○計画輸送バスへのスムーズな乗降が可能な駐車場、もしくは道路設備が望ましい。

○要望事項 ・会場地選定にあたっては、可能な限り交通至便で施設の充実した都市の活用を希望します。 ・大会支援に当たる自衛隊協力隊との調整が必要になります。

○開催地実行委員会との協議・調整事項 ・幕営地を1カ所にまとめ、移動を減らすためコースについて極力集約を希望しますが、会場地の要望(複数市町村にまたがるため、規模を拡大したい)等には柔軟に対応します。 ・観光需要等の地域の要望には極力対応します。

競技名	自転車競技		大会期間	4日間	番 号	20
競技場の基準	○トラック・レース 日本自転車競技連盟公認の自転車競技場または競輪場 ○ロード・レース 公道またはサーキット	コート(面)数 1	摘要	○女子は公開競技として実施している。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 ○トラック・レース会場 周長が333m、400m、500mのいずれでも可。 ○ロード・レース会場 登坂路、降坂路とともに平坦な区間も含み、鉄道踏切、鋭角のカーブ、断崖、降り坂の急カーブ等の注意箇所のない舗装道路とする。また、選手団通過時に全面交通規制ができることが望ましい。幅員は6m以上で、最後の1km地点からフィニッシュラインの後方100mまでは最小6mとし、10m以上であることが望ましく、視距離前後200m以上とする。ただし、道路外が直ちに建物、壁、側溝、崖等になっている場合は配慮する。フィニッシュ地点は平坦もしくは上り坂とする。スタート／フィニッシュは同一地点であることが望ましい。スタート／フィニッシュを含み、コースの各所に観衆が集りやすく、かつ競技の妨げにならないように設定する。コースは、1周10km～15kmの周回コースであることを原則とする。総距離は、100km～120kmが望ましい。 2 必須要件 公益財団法人日本自転車競技連盟競技規則集にある「自転車競技場および施設に関する基準要項」及び「ロード・レースに関する基準要項」による。 3 空調設備 野外での競技となるため、8月の特に暑い時期に行われるインターハイでは、競技役員の健康管理等を考えた時、空調設備のある施設が必要である。過去には競技役員が熱中症で倒れたこともありました。 (配慮すべき事項) 競技用自転車が高額のため保管場所を設置することが望ましいが、選手控え場所に警備員を配置すればそのことにより代替することも可能である。 現在、公開競技として女子種目が導入されており、女子選手に対する更衣室の設置が望まれる。						
サブ会場・練習会場		会場付帯施設・設備等				
○練習会場は、大会会場と同一。		公益財団法人日本自転車競技連盟競技規則集にある「自転車競技場および施設に関する基準要項」及び「ロード・レースに関する基準要項」による。				
○要望事項						
○開催地実行委員会との協議・調整事項						

競技名	ボクシング		大会期間	7日間	番 号	21
競技場の基準	リング2台を中心として審判席、役員席、観客席が設置できる広さが必要である。	コート(面)数 リング2基	摘要	○女子競技は実施しておらず、現段階では役員・審判員の配置等の関係から2会場に分離した形態での開催は考えていない。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 ・リング全体 = 7m80cm(正方形) (ロープ内 = 6m10cm) ・リング上の照明 = 1500~1600ルクス						
2 必須要件 ① リング2台(2面) ② 空調設備(冷房)						
3 空調設備 競技特性上、夏季屋内施設の冷房設備は選手の健康・安全面の配慮上、必要不可欠である。 空調設備の仮設には高額な経費が発生することから、会場選定の段階から既存の空調設備を有する施設について配慮いただきたい。						
(配慮すべき事項)						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
・選 手 控 室(競技会場内) ・ウォーミングアップ場(競技会場内) ・練習会場(ウォーミングアップ場と兼ねても可能) ・健診・計量 会場(選手宿舎の近隣)			観客席として500席程度を確保していただきたい。			
○要望事項 競技会場とは別に「健診・計量会場」が必要である。会場は選手の宿舎でもよいが、最大で選手350人が集まることが可能な場所であることが必要となる。使用時間は朝7:00~10:00の間と考えられるが、大会の進行に伴い、対象選手数が減少するため終了時間が早まり、使用時間は短縮される。 但し、「選手宿舎」と「競技会場」が徒歩10分以内の近距離であれば、別に「健診・計量会場」を設ける必要はなく、「競技会場」と兼ねてもよい。なお、この条件は日本ボクシング連盟が2013(平成25)年度から全国大会をするための要件となっている。						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 例年、実行委員会との協議・調整等は特に問題なく円滑に進めることができています。しかし、競技運営の中心的な役割を日本ボクシング連盟が担っており、大会運営に係って、実行委員会も含め、専門部と三者間での調整・協議に相当の時間と労力が必要となります。						

競技名	ホッケー		大会期間	5日間	番 号	22
競技場の基準	全国高等学校ホッケー選手権を兼ねているために日本ホッケー協会公認人工芝競技場1面(ナショナル規格クラスⅠ以上)が必要である。その他の競技場についても日本ホッケー協会公認マルチスポーツ規格同等以上が望ましい。	コート(面)数 3～4面 1面は日本ホッケー協会公認ナショナル規格クラスⅠ以上を取得すること。また、人工芝競技場については、安全面を考慮し日本ホッケー協会の公認を強く推奨。	摘要 ・男女同時開催とする ・準決勝以上の試合は、公認人工芝競技場(ナショナル規格クラスⅠ以上)での実施とする ・競技場3面で実施する場合は、荒天時を考慮し人工芝競技場を最低2面とし、残り1面を人工芝か天然芝競技場1面とする。また、競技場当たりの試合数が多くなるために公認ナショナル規格クラスⅠ競技場1面には照明施設(水平面照度350lux以上)の設置を強く推奨する。 ・競技場4面で実施する場合は、公認人工芝競技場(ナショナル規格クラスⅠ)1面、残り3面は人工芝競技場1面と人工芝か天然芝あるいはクレー競技場のいずれか2面とする			
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 ・3～4面のうち1面は、日本ホッケー協会公認人工芝(公認ナショナル規格クラスⅠ以上)が必要 ・競技場施設では、観客、選手、大会関係者に対して①快適な環境(快適性)、②安全な環境(安全性)、③周辺環境及び住民への影響(適合性)、④ユニバーサルデザイン、バリアフリーなどを考慮すること。 ・規格等の詳細については、日本ホッケー協会発行の「Hockey Handbook」の最新版を参照すること。 2 必須要件 ・プレーフィールドの広さは、縦91.4M×横55M(プレーフィールド以外の周囲は、ランオフエリアとしてバックライン外3M以上(推奨5M)、サイドライン外2M(推奨4M)が必要。片方のサイドライン側には、テクニカルテーブル・チームベンチのスペースが必要である。 ・フィールドのサイドライン側は完全にフェンス(防球ネット高さ50～100cm程度)、バックライン側(防球ネット)は少なくとも7M以上の高さ(推奨)で覆うことが必要である。フェンスの網目はホッケーボールが通過せず、観客の視界の妨げにならないこと。 ・保護者等の観客に対してのスタンドを設置すること。 3 空調設備 ・夏の高温期での大会であり、「競技役員控室」・「救護室」については冷房設備は必須 (配慮すべき事項) ・試合会場および練習会場においては、ボールによる負傷を防ぐためにボールがフィールド外に行かないように高さのある防球フェンスの設置、更に安全確保のための措置が必要である。						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
・試合前の練習会場(アップ場)は試合会場に隣接し、規模的にはプレーフィールド半面1チーム×2チーム分を要する。 ・試合前日までの練習場として、プレーフィールド半面×8面(8ゴール)又はその半分を要する。 ・開会式の前々日から開会式午前までを練習日とし、大会1日目は、1回戦の試合が無い男女12チームのみが練習となる。			・競技場施設として、テクニカルテーブル、チームベンチ、ペナルティーボックス、本部席、来賓席、救護所、報道関係者席、更衣室、次試合競技役員席、次試合チーム控室、放送席、大会運営者席、(全てテントの中で机と椅子付)が必要。 ・猛暑対策として、人工芝競技場とクレー競技場では散水ができるようにすること。 ・競技運営上に必要な用具として、ゴール、ゴール用ネット、フラッグポスト ・テクニカルテーブル備品として、ボール等32品目が必要である(添付資料)			
○要望事項 ・ボールが人や物に当たらない環境整備(防球ネットの設置) ・冷房室(救護室・競技役員控室)の設置 ・競技役員の確保(審判は1日1試合・TOとジャッジは1日2試合) ・駐車場の確保						
○開催地実行委員会との協議・調整事項						

競技名	ウエイトリフティング		大会期間	4日間	番 号	23
競技場の基準	○日本ウエイトリフティング協会規程の競技施設、同；器具公認認定規則、同；器具公認認定細則による。	コート(面)数 1面	摘要	○男女とも同一会場、同会期内で開催		
基準の主な内容 1 規格等 ・競技用演技台(10m×10m・高さ40cm～100cm)・旧規格8m×9mでも可。 ・プラットホーム(4m×4m、高さ10cm) ・競技用バーベルセット(200kg以上) 2 必須要件 ・床の強度確認。外光を遮る施設。 ・会場の広さは、演技台周りに進行席、記録席等を設置できるよう、30m×40m以上が望ましい。観客席は500席以上。 ・競技会場の器具については、記録公認競技であるので新しいものが望ましい。 ・日本ウエイトリフティング協会の規程に準ずる。 3 空調設備 ・健康・安全面を考慮し冷房設備が必要である。(アップ場も含む) (汗で器具がすべり危険を伴う。減量をする選手が多く長時間の試合の体調管理が難しい。参加選手及び補助競技役員生徒等の安全・体調管理の観点から冷房設備は必須であると考える。) (配慮すべき事項) ・運営システム、記録管理システム仕様については、事前に協議する。						
サブ会場・練習会場		会場付帯施設・設備等				
○アップ場: 競技会場に隣接し12面、公認器具12セット使用。(広さにより検討可。) ○練習場: 10面以上 (器具10セット以上で、認定トレーニング器具も使用可)		付帯施設: 検量室。予備検量室。選手控え室。更衣室。役員控え室。審判控え室。入賞者測定室。筆耕室。医務室。補助員控え室。インタビューコーナー。報道室。 諸会議室:(同一施設内でなくても可) 監督審判会議(200名程度)、全国委員会(50名程度)、常任委員会(20名程度)等、諸会議を実施できる部屋。 開会式: 競技会場での実施。 競技会場のレイアウトを変更できない等の場合には、近隣のホール等での実施可。 計量器: 検量用の体重計。(20gまで計れるもの・会場に最低3台) 宿舎用体重計。(宿舎数)				
○要望事項						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 ・競技運営については、日本協会競技規則・規程により実施するが、検討が必要な場合は専門部が調整する。 ・会場選定にあたっては、体育館にこだわらず、床や空調のことを考慮し、展示ホールなどでも開催可能。(事前協議による)						

競技名	ヨット		大会期間	4日間	番 号	24
競技場の基準	○スロープのあるヨットハーバー ○レース海面はヨットハーバーから1時間以内にあり、広さは直径1km～2kmの円が描ける程度が必要	コート(面)数	概要	○男女同時開催		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 ・約130艇を置ける艇置き場 ・スロープが必要 ・競技運営艇に係留するための棧橋が必要 2 必須要件 ・スロープ付近やスロープから艇置き場の間に艇を洗う水道が必要 ・艇置き場には艇を固定するための固定リングの設置が必要 3 空調設備 なし						
(配慮すべき事項) ・開催地が湖などの淡水で水がきれいであれば、艇を洗う水道は不要とすることも可能です。						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
なし			○スロープまたは艇置き場付近に競技統括所や選手への連絡業務を行う施設が必要。また隣接したところに計測部、審判部の業務ができる場所が必要。施設は仮設でも構いません。審判部には長机2つに6人程度人員が審問する小部屋4室が必要。ただし、炎天下での業務となるため各施設とも空調設備を設置していただきたい。 ○会場内もしくは競技運営艇係留棧橋付近に、海上で業務する役員の詰め所を設置してほしい。 ○選手が休息できる日蔭の場所または選手がテントを設置できるエリアが必要。 ○競技運営を統括する部屋には、場内放送設備、電話、FAX、コピー機、インターネット環境、競技運営無線系等が必要です。			
○要望事項						
○開催地実行委員会との協議・調整事項						

競技名	フェンシング		大会期間	5日間	番 号	25
-----	--------	--	------	-----	-----	----

競技場の 基準	○幅8m×長さ18m＝144平方m	コート(面)数	概要	○男女別・複数会場の開催でも可能だが、現行の方式が最も効率的と考えている。
		9+1＝10		

基 準 の 主 な 内 容	
1 規格等	各ピストには最新の国際規格に適合した審判機が必要 規約上は「同一メーカー・同一規格」が大原則。 同一規格が担保できれば、異メーカーでも可能であるが、同一規格を担保する方法を慎重に検討する必要があるので、現在は規約通りとしている。
2 必須要件	ピストの照明はピストの床上1mで測って750ルクス以上で視覚残像の効果のある照明は避ける。 また、試合中の選手に外の光が試合に影響してはならない。
3 空調設備	「競技が円滑にできるように、夏季の大会の室内温度は28℃以下に調整すること。」と規定されている。 ※規定されている根拠資料名「 」
(配慮すべき事項) 規約規定集に基づいた対応をお願いしたい。	

サブ会場・練習会場	会場付帯施設・設備等
○練習会場 6ピスト分(1ピストは18m×8m＝144平方m)を競技会場および宿泊施設に近い所に確保することを基本として希望する。	○観客席 1,000名程度の観客席の確保を希望する。

○要望事項 過去の大会で停電が起き、運営に支障が生じたことがあるので、停電に対する対応をお願いしたい。
--

○開催地実行委員会との協議・調整事項 (公財)全国高等学校体育連盟フェンシング専門部の規約規程集に基づき、実行委員会と調整・協議となります。 開催地実行委員会の意向を最大限に尊重します。

競技名	空手道		大会期間	4日間	番 号	26
競技場の基準	○規定のコート	コート(面)数 4面	摘要	○男女同会場同日開催 ○監督・引率教員・会場係員等の都合上、2会場以上で行うことは難しい。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 1コート 8m×8m の正方形。さらに安全域として四方に2mずつ加えた12m×12mのマット敷き。 (開催地の都合(経費・面積など)により、10m×10mのマット敷きでもかまわないが、安全域は、四方に1mずつ設ける) 2 必須要件 空手道競技用マット(組手競技では、投げ技や倒し技があることや選手同士がもつれて倒れることがあるため事故防止・安全性を考慮すると必須である。) 安全域を含めた、1コート12m×12mのスペース。 3 空調設備 夏季開催のため、空調設備(冷房)は選手の健康・安全、熱中症予防の観点から必須である。会場全体に機能できるもの。 仮設空調設備の設置は高額な経費が必要なため、会場選定の段階から空調設備の有無を考慮した検討をお願いしたい。 (配慮すべき事項) 平成27年度の大会では、観客の方々が熱中症と思われる体調不良で倒れられた場面があった。 事前に外付けのクーラーを複数台準備していただいたが、会場の温度があまり下がらず、扇風機で空気を循環させたり、部長判断で氷を調達したり、審判員にネクタイを外すことを特別に許可するなど、専門部で対応した。 (審判員の規定の服装は紺のブレザーにグレーのスラックス、半袖ワイシャツに規定のネクタイで暑い場合はブレザーを脱ぐことが認められている。会場の温度が下がらなかった理由として、送風口を観客等に触られないように2階観客席の上部(手の届かない高い場所)に設定したため、1階で冷やした冷気がホースを通る間に温められてしまったためだという説明があった。) 選手の暑さ対策はもちろんであるが、審判員の暑さ対策も充分に行わないと、判断ミス等で事故が起こってしまう可能性も考えられる。試合日数も限られており、長時間競技を裁く審判員の高温による疲労にも対策を講じる必要があると感じた大会であった。						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
隣接会場 1 隣接会場以外に3会場程度必要 (全ての都道府県選手が割り振られた会場で練習を行う。)			○ひな壇 審判長等が、試合場全体を見渡す必要があるため、会場床面より高いひな壇の設置を要望します。 ○観客席 1,500から2,000席程度の観客席が確保できることを希望します。 会場外に大型モニターを設置し、入場できない観客のために対応した事例もある。			
○要望事項 ○観客席は1,500～2,000席ほど確保できるとよい。確保できない場合は、会場外に大型モニタを設置し視聴できる場所の設置等も検討いただきたい。(千葉県大会、奈良県大会では設置されていました。)						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 ・例年、大会開催前(半年から1年程前)に、専門部委員長、事務局長、審判長が開催地の視察を行い、会場(競技スペース、練習会場、観客席等)、駐車場、宿泊施設等を確認し、気づいた点を開催地へ要望を伝え、調整を依頼します。 ・開催地実行委員会の意向を尊重します。						

競技名	アーチェリー		大会期間	3日間	番 号	27
-----	--------	--	------	-----	-----	----

競技場の基準	・400mトラックを有する陸上競技場での開催が可能である。	コート(面)数	摘要	○例年、男女同時、同一会場での開催で実施しており、分離開催は考えていない。 (基本的な開催日程の例) 0日目 監督会議・用具検査・開会式 1日目 予選(男女を午前・午後に分けて行う) 2日目 個人決勝・個人表彰 (男女同時進行) 3日目 団体決勝・団体表彰・閉会式 (男女同時進行)
		1		

基 準 の 主 な 内 容	
1 規格等 ・東西120～150m・南北100～130mを競技に要する。 ・標的は正北に対して左右20度以内の範囲に設置し、射手は南を背にして行射することが望ましい。 ・予選ラウンド 48的 24レーン(4.0m/レーン) 行射距離は70m 1レーン2標的 ・決勝ラウンド 個人 32的 左8レーン 右8レーン 中央を10mは空ける。 ・安全ネット 標的後方5～10mに高さ2m以上の防矢ネットを設置する。 2 必須要件 ・安全確保のため、行射方向の防矢対策(既存のスタジアム規格の陸上競技場であれば必要としない) ・競技用標的48脚・時間管理装置・選手テント・役員用テント・椅子・机・観客席との区切り(平地であるならばフェンス) ・記録集計室(要空調)・救護室(要空調)・電源設備 ・会場と練習会場、選手控えテントまで放送が届くこと。(悪天候で雷雨に見舞われ、避難指示をするなどの経緯がある) ・会場に避難施設があることが望ましい。(過去に雷雨・暴風により、危険な状況が発生した経緯がある) 3 空調設備 ・記録集計室は、コンピュータ、プリンターが稼働し、オペレータが常駐する環境になるため記録管理の観点から空調が必須である。 ・救護室は、救護を要する選手などが運ばれることがあるため、空調は必須である。 (配慮すべき事項) ・会場については、設備の充実している第2種以上(旧規格)の陸上競技場が望ましい。 - このことにより、以下の経費削減が可能になる。 - トイレや記録室などについても既存の施設を利用でき、仮設を利用しなくてよいため費用軽減が可能である。 - 周囲の塀が高いと安全確保のための防矢ネットなどの仮設物の費用などの軽減を図ることも可能である。 - 観客席と競技場を隔てるフェンスの設置費用も抑えることが可能である。	

サブ会場・練習会場	会場付帯施設・設備等
○練習会場は廃止とする	・選手控えテント(47都道府県分)・机・椅子 (用具管理のため) ・駐車場 ・閉会式会場 1会場(屋内)使用(会場地の意向を尊重します) ・トイレ(既存施設で対応できれば仮設は必要ない)

○要望事項 ・会場と選手控えテントまで放送が届くこと。 (悪天候で雷雨に見舞われ、避難指示をする場合がある) ・会場に避難施設があることが望ましい。(過去に雷雨・暴風により、危険な状況が発生した経緯がある) ・道具を持ち運びする競技特性から車での移動が困難な場合、選手・監督、役員等の移動交通手段について配慮いただきたい。

○開催地実行委員会との協議・調整事項 ・競技会場の選定に関しては、開催地実行委員会の意向を最大限に尊重します。
--

競技名	なぎなた		大会期間	3日間	番 号	28
競技場の基準	(公財)全日本なぎなた連盟規程に準ずる	コート(面)数 2面	摘要	○ 2会場は原則考えられない。(全国大会として競技場が2面確保できる会場がふさわしいと考える。) ○ 2会場(2面)にすれば、競技役員(競技場内外)の数も 多くなり、経費削減にはつながらない。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 1面=12m×12m コート間隔=2～5m 2 必須要件 ○ コート後方に次の試合の選手待機スペース(3～5チーム分=3<団体>～5<個人・演技>試合分)が必要である。 ○ 各コートサイドに、試合進行掲示板(決まり手表示板も含む)、コート競技役員席、コート審判員席が必要である。 ○ 2コートの中央(本部席側)に審判長と競技委員長の席(机)を設ける。 ○ コート面に支柱金具等ある場合には、目張りが必要となる。(スリップ防止のため) 3 空調設備 時期的にも、競技の特性上(防具着用)から空調設備は必須。(熱中症の予防及び汗による転倒防止等のため)						
(配慮すべき事項) ○ 競技運営上、競技場内の待機場所の他に、競技場外(別室や通路など)の事前待機場所(5～10チーム分:競技種目に異なる)があることが望ましい。						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
○ サブ会場(直前アップ練習場) 1面=隣接会場、 ○ サブ会場以外の練習会場 3会場(3面):小中学校でも可[競技会前日まで直前アップ練習場が使用できる場合には、2会場:2面]に減ずることができる。 サブ会場以外の練習会場は、競技日程の進行によって減ずることができる。			○ 控え室は、選手控室のほかに大会役員控室、審判員控室、来賓控室、競技役員控室(補助役員も含め)等があることが望ましい。 ○ 選手控室は、仮設テントでも可能である。 ○ 観客席は、300席以上の確保を希望する。			
○要望事項 選手控室から待機所、競技場への選手の移動が素足であるため、配慮いただきたい。						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 選手待機場所、サブ会場、練習会場、観客席、控室、空調等全てにおいて、体育館の仕様、立地条件、季候等によっても開催地の状況で違いが生じるので、開催地実行委員会の意向を最大限尊重し、協議、調整し、経費削減も含め誠実に対応します。						

競技名	カヌー		大会期間	4日間	番 号	29
競技場の基準	日本カヌー連盟公認B級コース	コート(面)数 1	摘要	○男女同時開催 ○日本カヌー連盟競技規則により大会実施		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 (公社)日本カヌー連盟B級公認コース レーン数9レーン以上、レーン幅9m、レーン全長500m以上、水深1.5m以上 2 必須要件 自動発艇装置 水上ブイ間隔は25m レーン表示ブイ 3 空調設備 大会運営用の各部屋(2～3)については、コンピュータ、コピー機、印刷機等の電子機器を多数使用するため温度調節が必要であり、あわせて真夏の高温期での屋内作業となるため、空調設備は必須である。						
(配慮すべき事項) ○競技施設に対する日本カヌー連盟の公認のため申請と公認料が必要となる。 ○認定には、コース規格図に規程されたサイズのブイ、スリット板、ランドマーク等の設置が必要となる。 ○また、日本カヌー連盟公認の自動発艇装置を使用することが必須である。						
サブ会場・練習会場			会場付常施設・設備等			
◇水域の確保 500mコース外でのウォームアップゾーンが必要となる。 審判艇等による返し波の影響が出ない川幅の確保及び工夫が必要。 ◇陸上施設 陸上でのウォームアップや クールダウンが可能なスペースの確保を希望する。			◇水上関係 自動発艇装置(日本カヌー連盟公認) 決勝判定システム(自動発艇装置連動) 乗降艇棧橋②(乗艇用、降艇用) 審判艇⑥救助艇② (発艇台) ◇陸上関係 2階建てプレハブ棟②(競技・運営本部、放送、記録等) テント多数(選手控所、更衣室、各審判部署、大テント①等) 決勝審判棟 (発艇台) 艇置台 艇洗い場 各種会議会場 ◇その他 各種文房具等事務用品・消耗品等 通信機器 審判用具			
○要望事項 開催地の事情を踏まえた無理のない大会運営の実施。 安全、公平のため必要な施設用具の確保。 全国高体連カヌー専門部競技運営委員会(前年度・次年度開催地実行委員会を含む)との連携。						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 開催に当たっては開催地実行委員会の意向を最大限に尊重し、調整・協議を進めます。						

競技名	少林寺拳法		大会期間	3日間	番 号	30
競技場の基準	少林寺拳法連盟の規定するコートの大きさ(競技場の大きさ:7m×7mを4コート)	コート(面)数 4コート	摘要	○男女同時開催で1会場で実施。 ○分散2会場での開催については、審判員の配置や採点機器の台数上、実施は困難である。		
基 準 の 主 な 内 容						
1 規格等 コートの広さ、競技用フロアマット(1m×1mが81枚必要)……コート周りのフロアマットの余白も必要。(別紙資料提供可) 【その他備品等】 1コートにつき、審判採点に使用する電子機器(審査用タブレット×5・採点表示モニター×2、採点集計用PC×1)、机2台、メモ台付きイス4脚、イス8脚が必要である。						
2 必須要件 ○コートの広さ及びコート数及び審判関係備品(得点表示システム機器)、会場内の審判員控え席、コート間の距離(5m)、会場の照度 ○対人格闘技なので、選手が安全に競技を行うために救護関係の設備及び養護教諭等の救急に関する部署についての配慮が必要となる。						
3 空調設備 夏季高温期の開催であり、選手の体調管理の面からも空調(冷房)設備は必須要件である。(選手によっては、単独演武と団体演武、組演武と団体演武というように、1日に1人が2種目に出場する場合が多いこともあり、体調管理が重要)						
(配慮すべき事項) ○審判員の配置については、例年、開催地近隣のブロック内だけでは絶対数が少なく審判員の確保が困難であり、公正な審判基準を維持するため全国各地から召集し、派遣依頼により確保していることについてご理解をいただきたい。 ○採点結果の公示により公正性を確保するため、コピー機(複合機)の設置について配慮いただきたい。						
サブ会場・練習会場			会場付帯施設・設備等			
○会場数は、大会前日は本大会施設とそれ以外の合計2会場(それぞれ4コート)。前日に開会式リハーサルを実施するので、本会場からできる限り近い場所が望ましい。(本会場以外の練習会場については学校関係の体育館でも可) ○大会期間中(前日を含む)は会場内のサブアリーナ(補助競技場)等の施設も、出場選手のウォーミングアップ、召集点呼に使用する。 ○練習会場の施設要件については、大会と同基準の競技用フロアマットを使用し、広さについても本大会の会場に近いものを希望する。			○競技場内以外では、諸会議が実施できる会議室(審判会議、引率責任者会議、都道府県代表者会議、全国専門部常任委員会会議)が最低2部屋必要。また、それに伴う、イス、机、放送設備が必要。引率責任者会議は出席者数が多いので、机は必要ないが、イスがある方が望ましい。 ○放送設備については、開会式、競技中も使用する。 ○観客席については、出場者数分を確保できることを要望する。 ○競技別開会式については、大会会場と同施設で実施できる。			
○要望事項 ・円滑に大会を運営するために、学校体育館では選手の待機席となる観客席の確保が困難なことから、公共の体育館施設等での実施を希望する。 ・サブ会場、練習会場については、大会前日に4コート設置の会場を2会場、以後期間中は4コート設置の会場を1会場確保できるよう要望します。						
○開催地実行委員会との協議・調整事項 ・当専門部については、今年度から初めてのインターハイ種目参加となります。インターハイ開催地や全国高体連の意向を受けて、すでにできる限り経費等を削減した状態で大会を計画し、また運営できるよう努めております。						

**全国高等学校総合体育大会（夏季大会）
競技施設・設備等基準
令和4年3月 第3刷**

発行 公益財団法人 全国高等学校体育連盟
事務局 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
〒100-0003 バレスサイドビル 2F
電話 03-6268-0027 ファクシミリ 03-6268-0028
E-mail : info@zen-koutairen.com
URL : <http://www.zen-koutairen.com/>